

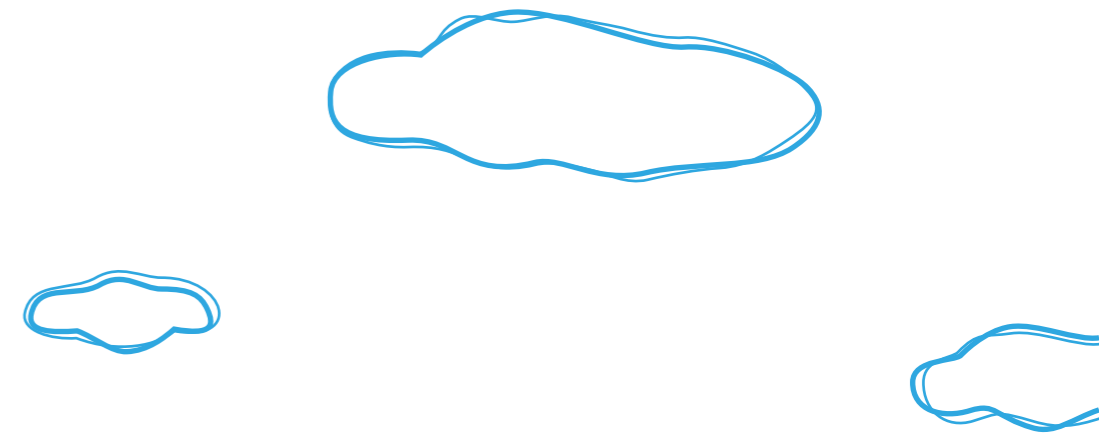
創刊号

キッズナル

kidsnal

tohoku kids kizuna journal

わたしたちは見る。
わたしたちは写す。
わたしたちは伝える。







福島県いわき市

クラブスいわきチーム

\ Here!! /





またここから、
たくさんの人の心に
小さな明かりが
灯りますように。



志賀 舞花 (13歳)

写真は、いわき市中央台鹿島にある仮設住宅です。
平成23年7月23日撮影。

いわき市内の仮設住宅は1024戸、その90%にあたる928戸が鹿島を含む中央台地区にあります。近くには広大な県営いわき公園があり、さる7月13日、公園を管理するいわき建設事務所による放射線調査が実施されました。園内48カ所で調査した結果、最高で毎時0.93マイクロシーベルトを検知した箇所も。いわき市の渡辺敬夫市長は7月25日、中学生以下の子供の被曝限度の基準値を毎時0.3マイクロシーベルトに設定すると発表しました。

いわき公園の放射線調査について

[詳しくはコチラ»](#)



今は誰もいない家だけど、
私の大好きな場所。

「遊びに行くよ。」

おじいちゃん、おばあちゃん。

志賀 舞花 (13歳)



写真は、いわき市久ノ浜町にある志賀さんの祖父母の家です。
平成23年7月16日撮影。

いわき市でも北部沿岸部にある久ノ浜地区は、死者63名、不明者12名、全半壊505戸と地震と津波の被害を大きく受けました。福島第一原発から30数Kmに位置し、約2ヶ月間も瓦礫の撤去が進みませんでした。高齢者の世帯も多く、震災直後は避難したものの、「自宅で暮らしたい」と町に戻った高齢者の方も多くいるとのこと。一人暮らし、寝たきりの高齢者の対策が急務と言われています。

※でも志賀さん、おじいちゃん、おばあちゃんは、震災前に亡くなっていますよね。

よっぽど素敵な思い出がいっぱいつまった家なんですね。(キッズナル)



毎日、毎日、家族。おかえり。

長瀬 志珠 (12歳)



長瀬さんの家族はみなさん無事でしたが、長瀬さんは、この震災で家族がいる大切さをあらためて感じたようです。しかし、今回の震災で親が亡くなったり行方不明になったりした18歳未満の子供は、厚生労働省によると、7月29日時点で226人に達します。財団法人全国里親会によると、8月10日時点でそのうちの98人が里親を求める申請を提出し、うち91人が認定され、里親との出会いを叶えました。

全国里親会について

[詳しくはコチラ»](#)



あの日から続いている風景。



長瀬 志珠 (12歳)

写真は、いわき市好間町。自宅近くの自動車工場となりのアパート。アパートは4月11日の余震でくずれてしまい、1階が完全につぶれて、写っているのは2階の部分です。平成23年7月13日撮影。

長瀬さんの自宅のある好間地区は、津波より地震の被害を受けた工場や家屋があったようです。工場や事務所を失った中小企業では、一時解雇、雇用打ち切り、雇用取り消しをしなければならない所も数多くあり、倒壊した工場等の撤去もままならない状況なのです。いわき市では、仮設住宅だけでなく仮設工場の斡旋も進められており、四倉中核工業団地内に仮設工場を設け、7月25日から応募を始めています。



私の部屋に飾ってあった、雛人形です。

これは、私が幼稚園の頃に
作った大切な物です。

地震の時に落っこちて、
おだいり様の扇子が取れてしまったけど、
いつまでも大切にしていきたいです。

平成23年7月21日撮影

木暮 瑠維 (9歳)



こぐれ るい



福島県いわき市小名浜
クラブス小名浜チーム

\ Here!! /





クラブス
小名浜チーム

あれから、わたしの好きな場所。

これは、私のお母さんのおふとんです。

なぜ、お母さんのふとんを

選んだかというと

お母さんのにおいがして

好きだからです。



加藤 さくら（10歳）

写真は、加藤さんの自宅の寝室。

平成23年7月15日撮影

震災以後、子供たちのストレス障害が心配です。いわき市保健所 精神保健係の話では、ストレスの症状で相談に来る父母の方は思ったより少ないとのこと。理由のひとつは、避難所などでは、いろいろな人たちが声をかけてくれてコミュニケーションが豊富だったこと。ならば仮設住宅に移ったこれから、症状を訴える子供たちが増えるかもしれません。いわき市保健所では、心のケア相談会を開催しています。

詳しくは、

いわき市保健所 地域保健課 精神保健係

電話番号 0246(27)8557

予約時間 平日8:30～17:00

うちのお風呂。

ここは私の大好きな場所薄磯です。

左下に写っているのが私の家のお風呂です。

今はこんなふうになってしまったけど

いつか前の薄磯に戻ってほしいです。



鈴木 沙那 (13歳)

写真は、いわき市平薄磯地区。

遠くには薄磯のシンボル塩屋崎灯台が見えます。

平成23年7月15日撮影。

いわき市の南東部、太平洋に面した平薄磯地区は、写真の通り津波で壊滅状態になった地区です。鈴木さんも、津波でおじいさんとおばあさんを亡くしました。薄磯地区は水産業が盛んなエリアです。その工場が壊滅的ダメージを受けました。福島ではまず原発問題が注目されていますが、薄磯地区のような津波による被害も深刻です。

ぜひ知って欲しいと思います。





クラブス
小名浜チーム

通うはずだった中学校。

これは、通うはずだった豊間中学校です。

割れたガラスには板が貼られ、
校庭にはがれきが山になってます。

1日も早く町が復興し
豊間中学校の校舎に戻りたいです。

鈴木 沙那（13歳）



写真は、平薄磯地区豊間の豊間中学校です。
平成23年7月22日撮影。

いわき市立豊間中学校は、薄磯海水浴場の海からわずか100mにあり、津波によってたいへんな被害を受けました。この4月、鈴木さんは豊間中学に入学するも、今は間借りしている藤間中学校に通っています。いわき市では、7校の小中学校が津波の被害や原発の影響で使用できなくなり、約1500人ほどの児童・生徒が、現在でも他の小中学校に間借りしている状況です。



クラップス
小名浜チーム

風評とたたかっているお父さん。

いわき市の野菜の風評被害に負けず頑張って
仕事をしているお父さんの姿です！



三嶋 理瑚 (13歳)

三嶋さんのお父さんは、野菜の卸売業を営んでいます。
平成23年7月9日撮影。

お父さんをなんとか助けたい、という三嶋さんの想いが伝わってくる写真です。言うまでもなく、風評に打ち勝つには、農産物の放射線数値を公正に公表し、安全性をアピールしていくしかありません。福島県ではこの8月、「ふくしま新発売」プロジェクトを立ち上げ、各エリアの農林水産物毎の放射線モニタリング情報の公開を始めました。安心を確かめて、どんどん福島産を買って欲しい!そう思います。

「ふくしま新発売」プロジェクトについて

[詳しくはコチラ»](#)



宮城県仙台市

クラブス若林チーム

\ Here!! /



お世話になった先生へ。

震災が起きてから数日間お世話になった

担任の先生への手紙です。

みんなに助けられたことを忘れないために書きました。

もし先生に会えたら、地震前日まで書いていて

あの日から止まってしまっていた日記を再開したよ、と

知らせたいです。

そして先生みたいに一緒にいて楽しい空気を作れる人に

なりたいと伝えたいです。

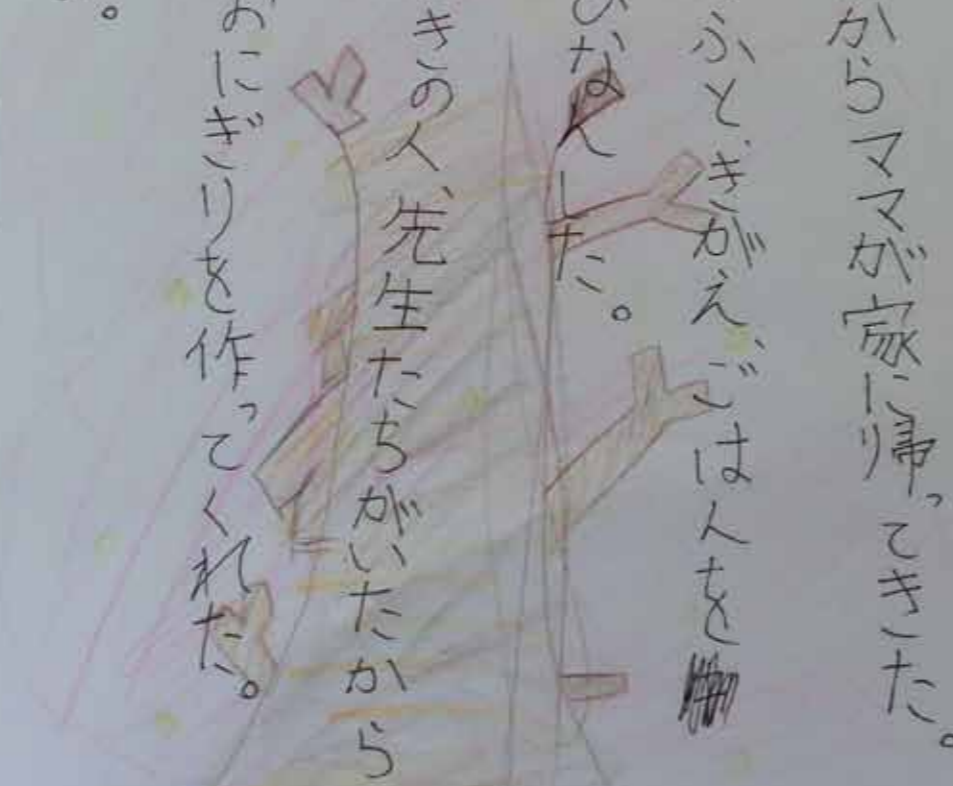
渡辺 楽 (9歳)



仙台市若林区では、区全域の56%が津波による浸水の被害を受けており、区内荒浜では多くの犠牲者が出ました。

平成23年8月撮影。

地しんが起きた時、先生が守ってくれた。
家に帰ったら、パパがこわれた物をなおしてく
れた。
30分以上してからママが家に帰ってきた。
みんながもうふとぎがえごはんと
持って学校にひな
友だちも地しんの人、先生たちがいたからこ
わくなかった。
先生たちがおにぎりを作ってくれた。
先生ありがとう。
地しんの人たちありがとう。
友だちありがとう。
じえんたいの人、けいさつの人、しょうぼうしの人、
全国から助けにきてくれたかたたち、あいか
ごはんと





宮城県名取市

クラブス名取チーム

\ Here!! /





蝉でも人を感動させることはできるんだ。

お父さんが拾ってきた幼虫の孵化の様子を

家族みんなで見届けようということになり、

ずっと自宅で観察していました。

夜、脱皮したのですが、朝になったらいなくなっていました。

蝉でも人を感動させることはできるんだなと感じました。



渡辺 華央 (13歳)

名取市は、仙台市の南隣。市内閑上地区は津波で甚大な被害を受けましたが、渡辺さんの家は幸い大きな被害はなかったそうです。

平成 23 年 8 月撮影



クラpps (宮城)



キッズナルキッズ

クラppsの ご紹介

このパイロット版の制作のために写真を撮り、
記事を書いてくれたのは福島と宮城に
13のチームを持つチアリーダーチーム
「クラpps」の子供たちです。
震災以降、各避難所や様々な復興イベントにおいて、
たくさんの笑顔と元気を届けてきました。
キッズナルの活動でも、たくさんの人に
勇気を与えてくれることでしょう。



クラpps (福島)





クラップス名取チーム 植木萌絵

じしんとつなみで、こわい
ことや悲しいことがたくさん
あったけど家族や友達
とのりこえました。私たち
の大好きな人や町の写真
をたくさんの人にみてほ
しいです。

キッズナル創刊号をお届けします。

本当は、最初に始めてくれたクラブスの子供たちに、創刊の言葉を言って欲しかったのですが、

この編集をしている8月、福島の子供たちの多くは、放射線を避け県外に避難しています。

そういう現実直面している子供たちが、彼らなりの視点で写真を撮ってくれました。

大人目から見れば、まだまだな点もたくさんあります。でも彼らでしか撮れないものもたくさんあります。

子供たちの写真と言葉を通して、彼らの成長を見守っていただければ幸いです。

1年を目標にしていますが、皆さんに認めていただければ、

2年3年、ずっと子供たちと続けていきたい。そう願いつつ。

2011年8月26日 キッズナル制作委員会

ご協力企業
(順不同、敬称略)

デジタルカメラ提供
カシオ計算機株式会社

キッズナル配信
株式会社トゥ・ディファクト

※株式会社トゥ・ディファクトは、大日本印刷、NTTドコモ、丸善CHIホールディングスの共同出資会社です。

KDDI株式会社

ソフトバンク モバイル株式会社

株式会社 イーブック イニシアティブ ジャパン

株式会社メディアドゥ

株式会社ブックリスタ

キッズナル編集・制作
株式会社エクシード

株式会社PILE